

令和8年7月27日(月)
しなやかに生きる子ども



1 学年 図画工作科
「すきまちゃんのすきなすきま」

「棚の隙間が洞窟みたいに見えたよ。冒険に出発。」

図画工作科では、対象との自己内対話や他者の見方・感じ方を通してつくり、つくりかえる中で、自分らしい表し方を追求する学びを目指します。普段は見慣れた環境を、すきまちゃんという、小さくて薄い存在の視点を通して改めて見ることで、今までは気が付かなかった隙間の面白さや隙間の活かし方を見付け、すきまちゃんのストーリーを広げる活動を設定しました。子どもは色々な隙間を見付ける活動を繰り返す中で、お気に入りの隙間を見付けたり、すきまちゃんのセリフを考えたりします。そうすることで、隙間を何かに見立て、すきまちゃんがどんなことをしているのか、ストーリーを思い浮かべながら隙間を探すようになります。友達との交流を経て、同じ隙間でも違う見方をしている友達の見方の面白さに気が付いたり、新しい発見をしたりと、お互いを認め合い、自分の見方や感じ方を広げる子どもの姿が見られました。

私たちは、自分の意思をもって粘り強く学ぶ力強さと仲間の考えを受け入れながら学んでいく柔軟さを兼ね備えた「しなやかに生きる子ども」を育みます。そのために、他者とつながり合い、“楽しい”を見いだす学びを大切にしていきます。多様な個を認め、高め合いながら学べるように「教材化」「教師の立ち位置」の二つの視点から、子ども一人一人を大切に授業の在り方を探っていきます。

図画工作科 1年「すきまちゃんのすきなすきま」より

視点1

多様な個が生きる教材化

本実践では、すきまちゃんと一緒に教室の色々な隙間を見付ける活動を通して、隙間を何かに見立てたり、ストーリーを想像したりして、場所の造形的な面白さに気付くことができる教材化を目指しました。セリフカードを取り入れたことで、見付けた隙間を何に見立て、すきまちゃんがそこでどんなことをして、何を言っているのかを考えることですきまちゃんのストーリーを想像し、自主的に隙間を探すことの“愉しさ”を見出す子どもの姿につながりました。

一方で、セリフカードを書く、写真を撮るという活動の多さにより、すきまちゃんを遊ばせたり、隙間を見付けたりする時間を十分に確保できなかった子どももいたため、活動量や時間配分等の授業構成を考える必要がありました。



多様な個が生きる教師の立ち位置

視点2



すきまちゃんを用いて教室の隙間や使い方に着目できるよう、教師は主に二つの立ち位置で授業を行いました。

一つ目は、子どもが隙間を何に見立て、どんな隙間ちゃんストーリーを想像しているのかを引き出す立ち位置です。「すきまちゃんは何をしているのかな?」「洞窟を冒険しているように見えたんだね。」と、隙間の使い方の工夫を聞いて言語化することで、見方や感じ方をより広げる姿につながりました。

二つ目は、子どもの見方や気づきをクラスに共有し、子ども同士をつなげる立ち位置です。友達のすきまちゃんストーリーを聞いて新しい見方や違いの面白さに気付いたり、友達に認めてもらったりすることで、より自信をもって主体的に隙間を探す活動に取り組むことができていました。